

ヒマラヤ原産で昭和初期に渡来しました。5~6月に白い花をつけ、冬に赤い丸い実をつけます。別名ピラカンサ。

広島市植物公園

見どころ案内

ウメ‘冬至’ (バラ科)

数あるウメ品種の中でも特に早咲きで、冬至のころから咲き始めるのでこの名がつけました。一重咲きの白花が咲き始めています。

南アフリカの球根植物

夏は乾燥し、冬は温暖で雨が降る南アフリカは、球根植物の宝庫です。サボテン温室ではツルバキアやキルタンサスが咲いています。

冬の鉢花展

カランコエなどの冬の鉢花を展示し、カランコエの繁殖戦略などをパネルで紹介しします。

カエンボク

(ノウゼンカズラ科)

西アフリカ原産の常緑高木で、やまぶき色の釣鐘状の花を咲かせます。ジャカランダ、ハウオウボクとあわせ、世界三大花木と称されています。

ホンコンシュスラン

(ラン科)

東南アジア熱帯地方が原産で、寒さには弱く、葉っぱに赤い筋が入っていて綺麗です。日本のシュスランとは別種で、別名ジュエルオーキッドとも呼ばれます。

ヒイラギナンテン

‘チャリティー’ (メギ科)

花の少ない真冬に香りのある黄色い花を咲かせています。

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (1/11~1/26)

植物写真コンテスト作品展

(1/11~1/26)

カカオとチョコの秘密展

(2/1~2/16)

◇展示温室(1/11~2/9)

冬の鉢花展

カンツバキ (ツバキ科)

一説ではサザンカとツバキの交配種と言われている、冬に赤い花をつけるツバキです。ヤブツバキの様に樹高が大きくなり、形が整いやすいことから庭木などとしても利用されています。

ハボタン (アブラナ科)

キャベツと同種で、そのルーツは江戸時代以前に日本に渡来した食用ケールだといわれています。日本で観賞用に改良された園芸植物で、冬の花壇に欠かせないものです。

シナマンサク

(マンサク科)

中国原産で、1~3月に黄金色のリボン状の花を咲かせます。中央部は暗赤色です。

ソシンロウバイ

(ロウバイ科)

半透明の鈍い艶がある花びらがまるで蠟細工の様にみえます。

タチバナモドキ (バラ科)

中国原産で日本には明治時代に観賞用として導入されました。名前の由来は果実がタチバナに似ているところから来ています。

